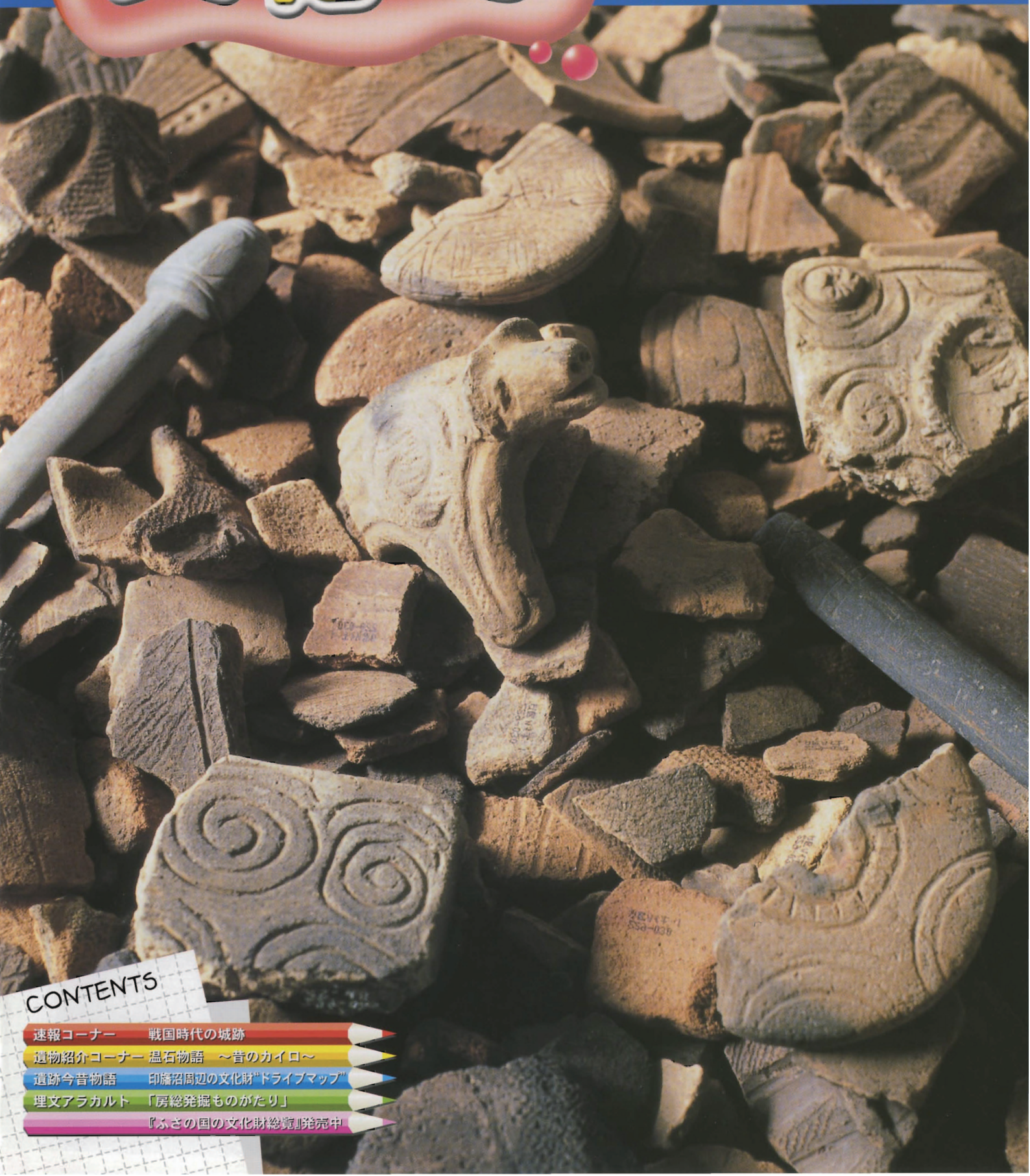
房総の文化財

VOL. 36
ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai
平成17年3月4日　財団法人 千葉県文化財センター
〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811（代）　FAX 043-422-8850
http://www.chibaken-bunkazai-center.or.jp



CONTENTS

速報コーナー　戦国時代の城跡
遺物紹介コーナー　温石物語　～昔のカイロ～
遺跡今昔物語　印旛沼周辺の文化財"ドライブマップ"
埋文アラカルト　「房総発掘ものがたり」
『ふさの国の文化財総覧』発売中

発掘調査速報

長生郡長柄町

後領遺跡

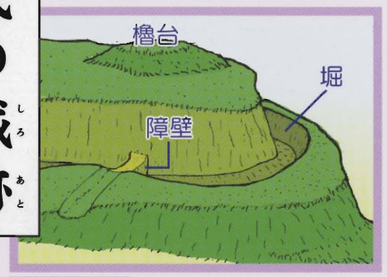
戦国時代の城跡

後領遺跡は、市原市と長柄町の境に近い丘陵先端部に位置しています。発掘調査は平成16年秋、県道のバイパス工事に伴って行われました。

調査の結果、丘陵先端に櫓台を、そしてその周囲に深い空堀をめぐらせたことがわかりました。堀は幅約4m、深さは下から約2m、上からだと約6mもあります。その形状は逆台形の箱堀で、堀を仕切る壁（障壁）も1か所見つかっています。

戦国時代末期、このあたりは長南武田氏の勢力下にありました。後領遺跡は、その勢力範囲の北西をおさえる城であった可能性があります。

発掘調査時の堀の様子
（人間の大きさからかなり深いことがわかります）



想像復元図

遺物コーナー 紹介

温石物語 ～昔のカイロ～

今は昔，温石といふものありけり。石や焼き物にて，火鉢にて温め，懐に入れて暖をとるなり。ある人，温石の空きし腹をなぐさむる効をもつて，茶席の食膳を懐石料理とす。[1] 時代うつりて，温石の世に失わるるも，懐石の名，永く世に伝わるなり。[2]

1）温石は、懐に入れることから「懐石」ともよばれました。温石には空腹をおさえる効果もあり、茶席で空腹をしのぐ少量のごちそうを「懐石料理」と呼ぶようになりました。

2）江戸時代中頃に、中に炭を入れた「懐炉」が登場し、温石は減っていきました。今では使い捨ての「カイロ」が一般的となり、「懐炉」の字も懐かしいものとなっています。

草庵に温石の暖唯一つ
（高浜虚子）

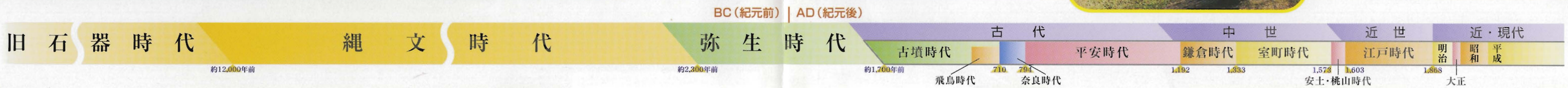
（写真解説）
君津市郡遺跡の溝から出土した、滑石製の温石です。鎌倉時代のものと考えられます。
長さ10.4cm、幅6.7cm、厚さ3.3cm、重量は430gです。

遺跡今昔物語

印旛沼周辺の文化財“ドライブマップ”

今回の『遺跡今昔』は少し趣向を変えて、北総地域の文化財めぐりです。国道16号の道の駅「やちよ」を起点に、印旛沼の北側に沿って栄町にある「県立房総のむら」まで、途中、立ち寄ることができる遺跡や公園などを紹介します。晴れた日には気持ちの良い場所も多く、休日のちょっとしたドライブで、散策がてら文化財に接することができますよ！【距離は約40km、約4時間の行程です。】

牛に乗った松虫姫の像



埋文・アラカルト

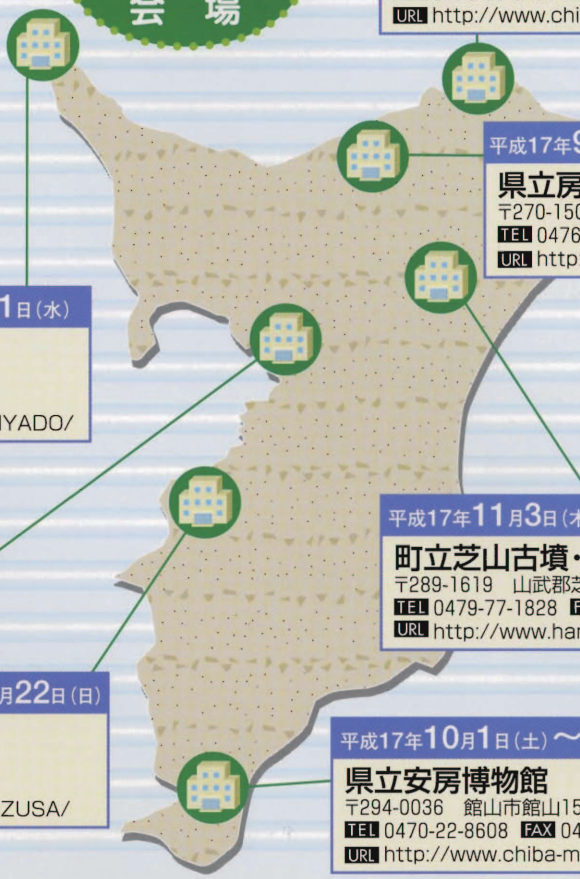
お知らせコーナー

～平成17年度出土遺物巡回展～「房総発掘ものがたり」

平成17年度の巡回展は7月から県立大利根博物館を皮切りに、県内の博物館7館を巡回して開催します。（地図参照）

県内各地の発掘調査で発見された、未公開資料が数多く出展されます。なお、各会場では「勾玉つくり」など様々なイベントを実施する予定です。詳細は各博物館にお問い合せ下さい。

期間及び会場



平成17年7月9日（土）～平成17年7月31日（日）
県立大利根博物館
〒287-0816　佐原市佐原ハ4500
TEL 0478-56-0101　FAX 0478-56-1456
URL http://www.chiba-muse.or.jp/OTONE/

平成17年9月4日（日）～平成17年9月25日（日）
県立房総のむら
〒270-1506　印旛郡栄町竜角寺1028
TEL 0476-95-3333　FAX 0476-95-3330
URL http://www.chiba-muse.or.jp/MURA/

平成17年8月4日（木）～平成17年8月31日（水）
県立関宿城博物館
〒270-0201　野田市関宿三軒家143-4
TEL 04-7196-1400　FAX 04-7196-3737
URL http://www.chiba-muse.or.jp/SEKIYADO/

平成18年2月4日（土）～平成18年3月2日（木）
県立中央博物館
〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2
TEL 043-265-3111　FAX 043-266-2481
URL http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/

平成17年11月3日（木）～平成17年12月4日（日）
町立芝山古墳・はにわ博物館
〒289-1619　山武郡芝山町芝山438-1
TEL 0479-77-1828　FAX 0479-77-2969
URL http://www.haniwakan.com/

平成17年12月10日（土）～平成18年1月22日（日）
県立上総博物館
〒292-0044　木更津市太田2-16-2
TEL 0438-23-0011　FAX 0438-23-2230
URL http://www.chiba-muse.or.jp/KAZUSA/

平成17年10月1日（土）～平成17年10月30日（日）
県立安房博物館
〒294-0036　館山市館山1564-1
TEL 0470-22-8608　FAX 0470-22-8696
URL http://www.chiba-muse.or.jp/AWA/

『ふさの国の文化財総覧』

好評発売中!!（残部僅少）

● 第1巻（安房・夷隅・長生）　定価**1,400**円

県内の国・県指定文化財を網羅！

続刊も“6月”発売予定!!

● 第2巻
（海匝・香取・印旛）

● 第3巻
（東葛・京葉・君津・山武）

※お問い合せは文化財センター資料課まで

表紙の説明

縄文時代の様々な道具
（袖ケ浦市上宮田台遺跡）

袖ケ浦市上宮田台遺跡は、平成14・15年度に調査された縄文時代後・晩期（3,500年～2,300年前頃）を中心とした遺跡です。大量の縄文土器とともに、写真のような様々な呪術的な道具が出土しています。

写真中央に見えるのは、動物を形どった土製品で、頭から前脚の部分が残っています。その愛らしい顔の表現から整理室のアイドルとなっています。

この広報紙は、文化庁より平成16年度国宝重要文化財等保存整備費補助金（埋蔵文化財紹介・周知事業）の交付を受けて作成しています。

埋文・アラカルト

お知らせコーナー
「千葉県遺跡調査研究発表会」のお知らせ

県内の埋蔵文化財を調査する法人で組織される「千葉県文化財法人連絡協議会」では、調査成果を広く県民の皆様にご紹介するため、今年度も「千葉県遺跡調査研究発表会」を開催いたします。

なお、当日は発表遺跡に関する出土遺物の展示や報告書等の販売も行います。参加希望の方は、当日会場へ直接お越し下さい。参加費は無料です。

日　　時　平成１８年１月２２日(日)
１０：００～１５：２０

会　　場　千葉市文化センター
(千葉市中央区2-5-1ツインビル２号館)
３階アートホール(研究発表会)
５階市民サロン(展示会場)

交　　通　ＪＲ総武本線「千葉駅」下車徒歩１０分
京成千葉線「千葉中央駅」下車徒歩１０分

研究発表会　【午前の部】１０:１０～１１:４０
【午後の部】１３:００～１５:２０

詳細が決まり次第、ホームページなどでお知らせします。

『ふさの国の文化財総覧』
待望の第２巻、第３巻発売開始!!

● 第2巻(香取・海匝・印旛)　定価1,500円
Ａ４版292頁オールカラー

● 第3巻(東葛・京葉・君津・山武)　定価1,500円
Ａ４版276頁オールカラー

好評発売中
● 第1巻(安房・夷隅・長生)
Ａ４版238頁オールカラー
定価1,400円
残部僅少

第3巻▶
◀第2巻

内　容
県内に所在する国や千葉県が
指定・登録した文化財のガイドマップ！
文化財の所在地を訪ねるのに便利な交通案内地図入り
＊申し込み冊数によって送料・送付方法が変わりますので、
事前にお問い合わせ下さい。

問い合せ先
財団法人千葉県文化財センター　資料課
電話０４３－４２２－８８１１(代)

お近くの博物館でも販売中！

県立上総博物館	県立安房博物館	県立総南博物館
県立大利根博物館	県立房総のむら	県立中央博物館
県立美術館	県立関宿城博物館	

埋文レポート
昔・昔・あるところに…　―柏市大松遺跡現地説明会―

千葉県文化財センターでは、調査のようすや最新の成果を広く県民の皆さんに見ていただくため、年に数回、各地で現地説明会を開催しています。

今年度の第1回目の説明会は、5月28日に柏市大松(おおまつ)遺跡で行いました。大松遺跡は北に筑波山(つくばさん)を望む、利根川沿岸の水田地帯を見下ろす台地上にあります。8月24日に開通したつくばエクスプレスの、『柏たなか駅』の北側にあたります。

当日は今年度の調査で見つかった縄文時代前期(約6,000年前)の集落についての詳しい説明のほか、これまでに出土した遺物の展示解説も行い、初夏の強い陽射しのなか400人をこえる方々にご参加いただきました。

石器を作るのに使われたメノウ

現在、四街道市にある千葉県文化財センターの本部では、大松遺跡でこれまでに見つかった遺物の整理作業が進行中です。

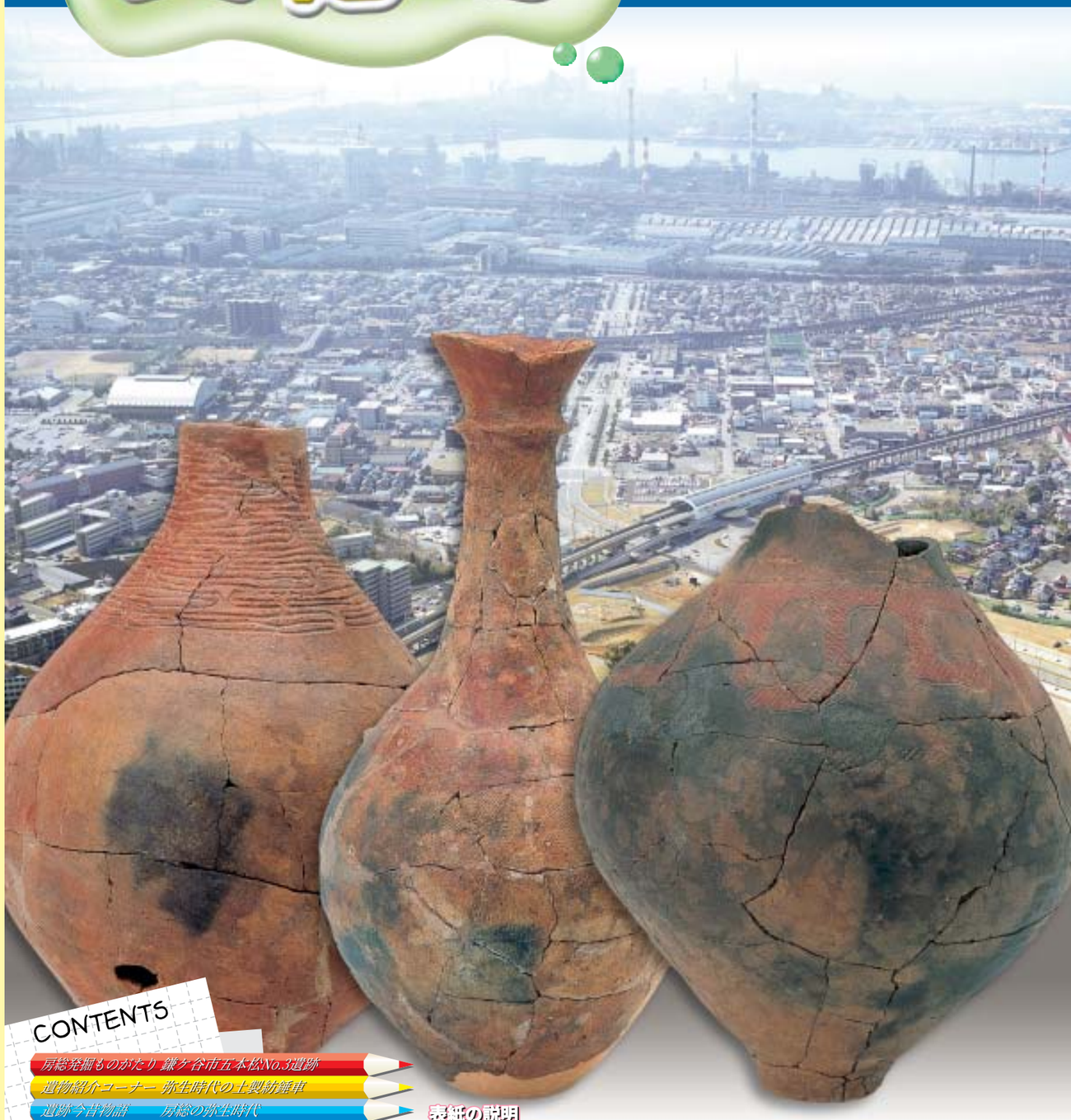
旧石器時代では、約27,000～20,000年前のナイフ形石器の製作跡が22か所見つかっています。なかには、メノウ(宝石にもなるきれいな石)で作った石器もあります。

また縄文時代中期(約4,500年前)の竪穴住居跡(たてあなじゅうきょあと)100軒以上、食料貯蔵(ちょぞう)用の穴300個以上が直径120mの環(わ)のように並ぶムラも見つかっています。大量に掘り出された縄文土器には、中部地方の山間部のものや北関東のもの、利根川の下流や霞ヶ浦(かすみがうら)周辺のものなどがあり、大松遺跡が文化交流の交差点だったことがわかります。

房総の文化財

VOL. 37
ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai
平成17年8月31日　財団法人 千葉県文化財センター

〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代)　FAX 043-422-8850
http://www.chibaken-bunkazai-center.or.jp



CONTENTS

房総発掘ものがたり　鎌ヶ谷市五本松NO.3遺跡
遺物紹介コーナー　弥生時代の土製紡錘車
遺跡・今昔物語　房総の弥生時代
埋文アラカルト　『ふさの国の文化財総覧』発売中
埋文レポート　昔・昔・あるところに…

表紙の説明
千葉市中野台(なかのだい)遺跡で出土した弥生時代中期の壺(つぼ)です。中央の壺には東北地方の、左の壺には相模(さがみ)地方の影響(えいきょう)が強く感じられます。背景は、中野台遺跡のある千葉寺(せんばでら)地区から東京湾を望む写真です。

開催中

鎌ケ谷市五本松No.3遺跡

今年の巡回展の中から今回は、旧石器時代の石器の材料となった石の流通のようすをご紹介します。房総半島では、さまざまな地域から石材が運び込まれていて、それらを研究することで、当時の人びとの動きを探ることができます。

鎌ケ谷市五本松No.3遺跡からは、約27,000年前の石器を作ったあとが発見されました。そこに残された黒曜石の破片をパズルのように貼り合わせると、約15cm×10cmのたまご形のかたまりになります。

分析の結果、これは栃木県からもたらされたということが明らかになりました。このパズルの中で、発見されなかった石の破片は、槍の先やナイフなどに加工されて使われたのでしょう。

会場・期間

千葉県立大利根博物館 終了しました
☎ 0478-56-0101
平成17年7月9日（土）～7月31日（日）

千葉県立関宿城博物館 終了しました
☎ 04-7196-1400
平成17年8月4日（木）～8月31日（水）

千葉県立房総のむら
☎ 0476-95-3333
平成17年9月4日（日）～9月25日（日）

千葉県立安房博物館
☎ 0470-22-8608
平成17年10月1日（土）～10月30日（日）

芝山町立芝山古墳・はにわ博物館
☎ 0479-77-1828
平成17年11月3日（木）～12月4日（日）

千葉県立上総博物館
☎ 0438-23-0011
平成17年12月10日（土）～平成18年1月22日（日）

千葉県立中央博物館
☎ 043-265-3111
平成18年2月4日（土）～3月2日（木）
「発掘された日本列島展2005」と同時開催

遺物紹介コーナー

弥生時代の土製紡錘車

うえ

よこ

印西市松崎Ⅳ遺跡出土
（弥生後期）

私たちが生活するうえで「衣・食・住」の確保は、必要最低限の条件です。紡錘車は中心の孔に心棒を通して糸を紡いだ道具で、衣類づくりのおおもとを担いました。写真は最近出土した弥生後期のもので、文様がつけられています。縄文時代の紡錘車は土器片を再利用したものが主でしたが、弥生時代には専用の製品となります。これらの土製紡錘車は、利根川下流域から霞ヶ浦周辺にかけての遺跡から大量に出土することから、この一帯で糸や布が盛んにつくられたようです。

うえ

よこ

した

印西市船尾白幡遺跡出土
（弥生後期）

遺跡今昔物語 特集

房総の弥生時代

近年報告の成果から

今回の「遺跡今昔」コーナーは、当センターでごく最近報告した、あるいは現在整理作業中というホットな遺跡の中から、房総の弥生時代について少しご紹介します。弥生時代というと西日本中心と思われがちですが、意外と身近に遺跡があるんですよ!

弥生時代の関東地方は、神奈川県を中心とした南西部と、栃木県や茨城県などの北東部で、ようすがかなり異なります。例えば、南西部では「環濠集落」と「方形周溝墓」が多く見られますが、北東部ではこうした遺構はありません。房総半島は、この二つの地域の中間にあたり、南北の文化が接触し、混ざり合って、いわば弥生時代の「文化の十字路」となっていました。房総半島は南北に長く、場所によって影響の受け方が異なるため、同じ県内でもさまざまな様相が見られます。

①印旛沼北岸の土器（弥生後期）〔印西市船尾白幡遺跡〕
壺の文様には、北の茨城県側の土器と共通する特徴が見られます。

②印旛沼南岸の土器（弥生後期）〔八千代市道地遺跡〕
北と南の土器が一緒に出土しています。両方の要素をあわせ持つ「折衷土器」も出土しています。

③並んでつくられた方形周溝墓〔市原市中潤ケ広遺跡〕
溝で四方を区切ったお墓です。この遺跡では住居跡とセットで見つかりました。

④環濠と住居跡〔君津市鹿島台遺跡〕
中央に見られる2列の溝が環濠です。この遺跡で出土した土器は、出土遺物巡回展で展示中です。

⑤房総半島南部の土器（弥生中期）〔君津市常代遺跡〕
南西関東的な土器の良好なセットです。人びとが東京湾をはさんで盛んに行き来した結果かもしれません。

①:2004年刊行　千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書ⅩⅥ－印西市船尾白幡遺跡－（第477集）
②:2004年刊行　船橋印西線埋蔵文化財調査報告書2－八千代市道地遺跡－（第464集）
③:今年度末報告書刊行予定
④:今年度末報告書刊行予定
⑤:2004年刊行　国道127号埋蔵文化財調査報告書－君津市常代遺跡六反免地区ほか－（第493集）
表紙:今年度末報告書刊行予定

埋文・アラカルト

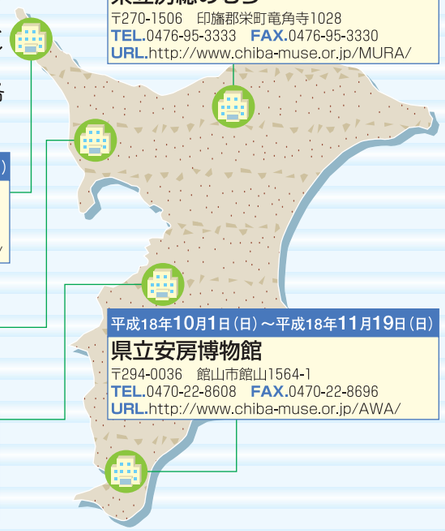
お知らせコーナー

～平成18年度出土遺物巡回展～「房総発掘ものがたり」

平成18年度の巡回展は7月から県立房総のむらを皮切りに、県内の博物館5館を巡回して開催します（地図参照）。

県内各地の発掘調査で発見された、未公開資料が数多く出展されます。なお、各会場では「勾玉つくり」など様々なイベントを実施する予定です。詳細は各博物館にお問い合せ下さい。

期間及び会場



平成18年7月22日（土）～平成18年9月24日（日）
県立房総のむら
〒270-1506　印旛郡栄町竜角寺1028
TEL.0476-95-3333　FAX.0476-95-3330
URL.http://www.chiba-muse.or.jp/MURA/

平成18年11月25日（土）～平成18年12月24日（日）
県立関宿城博物館
〒270-0201　野田市関宿三軒家143-4
TEL.04-7196-1400　FAX.04-7196-3737
URL.http://www.chiba-muse.or.jp/SEKIYADO/

平成19年2月17日（土）～平成19年3月25日（日）
松戸市立博物館
〒270-2252　松戸市千駄堀671
TEL.047-384-8181　FAX.047-384-8194
URL.http://www.2.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/

平成19年1月5日（金）～平成19年2月12日（月）
袖ヶ浦市郷土博物館
〒299-0255　袖ヶ浦市下新田1133
TEL.0438-63-0811　FAX.0438-63-3693

平成18年10月1日（日）～平成18年11月19日（日）
県立安房博物館
〒294-0036　館山市館山1564-1
TEL.0470-22-8608　FAX.0470-22-8696
URL.http://www.chiba-muse.or.jp/AWA/

平成17年度 出土遺物巡回展

房総発掘ものがたり＆新発見考古速報展

発掘された日本列島―2005―

毎年、両国の「江戸東京博物館」を振り出しに、全国を巡回する「発掘された日本列島2005」が、今年は県立中央博物館でフィナーレを迎えます。また、今年度の「房総発掘ものがたり」も同館がフィナーレに。さらに同館では「発掘された日本列島2005」に併せて地域展「氷河時代の旅」が同時に開催され、一度に3つの展示会を見ることができます。開催期間は平成18年2月4日（土）～平成18年3月2日（木）まで。このチャンスをお見逃しなく。

縄文土器に写し出される地域交流

表紙の説明

今回表紙に登場したのは、柏市大松遺跡から出土した縄文時代中頃（約4,500年前）の土器で、凹凸で描かれた線が渦を巻き、蛇行しながら複雑に絡み合っています。こうした文様は、越後から北陸方面の影響を強くうかがわせます。この頃、房総半島では様々な地域との交流が盛んだったようで、下の写真は（表紙の土器は1）、二つの遺跡から出土した様々な地域の特徴を持った土器を集めてみました。

1は「越後・北陸」、2は「甲信・西関東」、3「東北南部・北関東」4は「東関東・西関東」5は「北関東・東関東」の特徴がうかがえる土器です。いずれも地域の豊かな個性を発揮しています。

1・2・4　柏市大松遺跡　　3・5　印旛郡酒々井町墨古沢遺跡

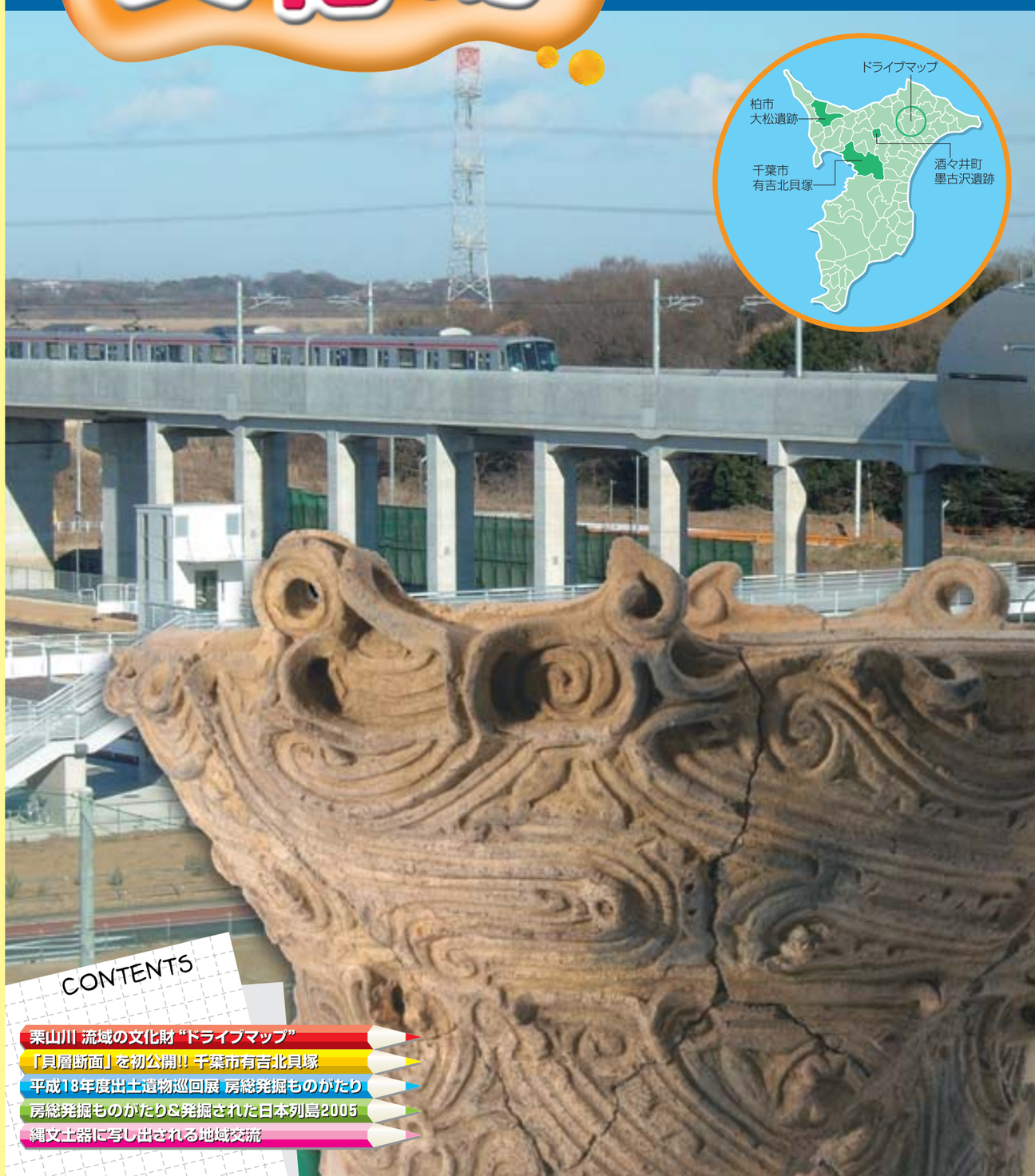
背景は大松遺跡があった「つくばエクスプレス（TX）」の柏たなか駅前で、最新型車輌がまさに駅に入るところです。ここから都心まで36分で結びます。

縄文時代、遠く離れた地域との交流は、どのくらいの時間をかけて結ばれていたのでしょうね？

※当財団は平成17年9月1日付で名称を「財団法人 千葉県文化財センター」から変更しました。

房総の文化財

VOL. 38
ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai
平成18年1月31日　財団法人 千葉県教育振興財団
〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811（代）　FAX 043-422-8850
http://www.chibaken-bunkazai-center.or.jp



CONTENTS

栗山川 流域の文化財“ドライブマップ”
「貝層断面」を初公開!! 千葉市有吉北貝塚
平成18年度出土遺物巡回展 房総発掘ものがたり
房総発掘ものがたり＆発掘された日本列島2005
縄文土器に写し出される地域交流

栗山川（多古～八日市場）流域の文化財“ドライブマップ”

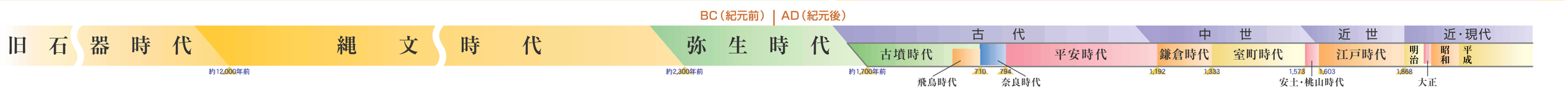
今回は成田空港の南にある多古町とその周辺をご案内します。
町の中央を流れる栗山川の周辺には水田がひろがり、
名産は、なんといっても食味日本一の多古米です。
6月下旬の「あじさい祭り」は必見。【距離は約２０km、約４時間の行程です】

大人気 「貝層断面」を初公開!!

・・・千葉市有吉北貝塚・・・

この夏の話ですが、上野の国立科学博物館で「縄文VS弥生」展が開かれました。展示は「縄文時代」と「弥生時代」、「考古学」と「人類学」を対決させたものです。夏休みということもあり、なんと13万もの人が足を運びました。

入口のタイムトンネルを抜けると、いきなり高さ4m、幅10mの貝がらの壁が現れます。そのスケールの大きさに誰もが目を奪われていました。この貝層は当財団が20年前に千葉市有吉北貝塚を調査した時、特別な薬品を使い遺跡からはがし、そのままの状態で持ち帰ったものです。あまりの大きさから、今まで全部を展示をすることができませんでした。今回が初お目見え！遺跡の臨場感を伝える展示として大人気でした。



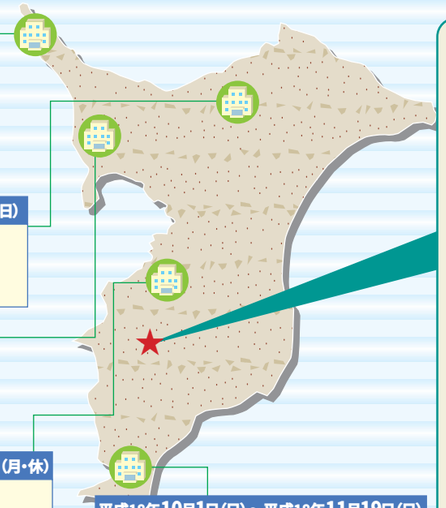
埋文・アラカルト

お知らせコーナー ～平成１８年度出土遺物巡回展～「房総発掘ものがたり」

毎年恒例となった出土遺物展「房総発掘ものがたり」！　今年は県立房総のむらを皮切りに県内の５か所の博物館を巡回します。

県内各地で発掘された未公開の考古資料が出展されるほか、各館では展示解説や「勾玉つくり」などの様々なイベントが予定されています。詳細は各博物館までお問い合わせください。

期間及び会場



平成18年11月25日(土)～平成18年12月24日(日)
県立関宿城博物館
〒270-0201　野田市関宿三軒家143-4
TEL.04-7196-1400
URL.http://www.chiba-muse.or.jp/SEKIYADO

平成18年7月22日(土)～平成18年9月24日(日)
県立房総のむら
〒270-1506　印旛郡栄町竜角寺1028
TEL.0476-95-3333
URL.http://www.chiba-muse.or.jp/MURA

平成19年2月17日(土)～平成19年3月25日(日)
松戸市立博物館
〒270-2252　松戸市千駄堀671
TEL.047-384-8181
URL.http://www2.city.matsudo.chiba.jp/m_muse

平成19年1月5日(金)～平成19年2月12日(月・休)
袖ケ浦市郷土博物館
〒299-0255　袖ケ浦市下新田1133
TEL.0438-63-0811
URL.http://www.sodegaura.ed.jp/sodehaku

平成18年10月1日(日)～平成18年11月19日(日)
県立安房博物館
〒294-0036　館山市館山1564-1
TEL.0470-22-8608
URL.http://www.chiba-muse.or.jp/AWA

こんな資料が展示されます！

舟の絵が刻まれた須恵器（すえき）
君津市鹿島台遺跡D区出土

古墳時代中期（今から約1,600年前）の住居跡から見つかった、舟の絵が刻まれたコップ形の須恵器です。東海地方より西でつくられたもので、房総に移住してきた集団が持ってきたようです。舟に乗って、海を渡ってやってきたのでしょうか？

表紙の説明

船子（ふなこ）遺跡出土の弥生土器

船子遺跡は、当財団南部調査事務所(旧県立大多喜女子高等学校)のある丘陵上に立地する縄文時代から中世までの各時代の遺物が確認されている遺跡です。(表紙写真)
1968(昭和43)年に偶然発見された弥生土器は、出土状況や特徴から弥生時代中期の再葬墓（こうそうぼ）(一度埋葬して白骨化した骨を掘り出し、その一部を壺（つぼ）に入れて再度葬る墓制(ぼうむ))に用いられた壺と考えられるもので、大変貴重な資料といえます。

埋文レポート　中学生の職場体験

平成18年6月7日～9日に千葉市の中学生4人が職場体験のため、四街道の財団本部を訪れました。

復元作業で本物の土器に触れ、酒々井町の遺跡で発掘作業を体験したり、“勾玉つくり”も実習し、埋蔵文化財の大切さを感じるとともに結構体験を楽しんだ様子です。

ぜひ皆さんも体験してみてください。

Q　なにが楽しかった？

A　やっぱり“勾玉つくり”かな。それと現場でおばさん達と話ができたこと。

Q　一番つらかったのは？

A　発掘で1万年以上前の土層を掘る“深掘り”がきつかった。

房総の文化財

VOL. 39
ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai
平成18年7月12日　財団法人 千葉県教育振興財団
〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811（代）　FAX 043-422-8850
http://www.echiba.org
（ホームページアドレスが変わりました）

CONTENTS

◆南部調査事務所展示室オープン
◆～平成１８年度出土遺物巡回展～「房総発掘ものがたり」
◆埋文レポート　中学生の職場体験

大多喜周辺の文化財“ドライブマップ”

今回は房総半島の中央に位置する－城と渓谷の町－大多喜とその周辺をご案内します。「房総の小江戸」と呼ばれ、春は「大多喜世界レンゲまつり」、秋は「大多喜お城まつり」でにぎわいます。

今回の行程【距離は約30km、約4時間の行程です。】

道の駅「たけゆらの里おおたき」 ◀ 南部調査事務所展示室 ◀ 県立中央博物館大多喜城分館 ◀ 大多喜の町並み散策 ◀ 女ヶ谷遺跡・台古墳群 ◀ 妙楽寺 ◀ 能満寺古墳 ◀ 睦沢町立歴史民俗資料館 ◀ 道の駅「つどいの郷むつざわ」

古墳時代前期に造られた全長73mの前方後円墳。墳丘の形がよく残っています。

本堂の国指定重要文化財「木造大日如来坐像」は必見！平安時代後期の作で、県内の古彫刻坐像としては最大。その大きさには圧倒されます。

（写真提供＝千葉県教育委員会）

奈良・平安時代の竪穴住居跡が調査されました。

町並み散策をされる方は、まず、いすみ鉄道大多喜駅前の“大多喜町観光本陣”（観光案内所）へ！近くには無料の町営駐車場も完備。町の見どころ満載のガイドマップをもらって･･･さあ町並み探検へ出発！駐車場が少ないので歩くのがgood！
<☎ 0470-80-1146>

旧県立総南博物館。大多喜城の跡にあり、天守閣づくりの博物館は大多喜町のシンボルになっています。館内には江戸時代の大多喜藩ゆかりの資料がいっぱいです！
<☎ 0470-82-3007>

地元産朝採り新鮮野菜や花、フレッシュ乳製品などなど、特に春には特産のタケノコがお買い得！お昼のお弁当に絶好…房総の郷土料理「太巻き寿司」もアリ。

南部調査事務所展示室オープン

平成18年3月24日、当財団南部調査事務所に展示室がオープンしました。大多喜町内をはじめ千葉県南部に所在する遺跡を中心に、県内各遺跡から出土した旧石器時代から中世までの考古遺物約500点を展示しています。

また埋蔵文化財の紹介ビデオのコーナーもあり、さらに展示室の隣には古代体験ルームが設置され、「勾玉つくり」や「火起こし」などの体験を通して古代の人々の知恵と技術に触れることができます。

利用案内

開室時間	毎週月曜日から金曜日までの午前9時～午後4時30分
休室日	土・日曜日、祝日、年末年始（12/28～1/4）、当財団の休業日
入場料	無料
電話	0470-82-2425（南部調査事務所）、事前に電話で開室日をご確認ください。

埋文・アラカルト

お知らせコーナー

千葉県遺跡調査研究発表会

県内の埋蔵文化財調査法人で組織される千葉県文化財法人連絡協議会は、調査成果を広く県民の皆様にご紹介するため、今年度も次のとおり「千葉県遺跡調査研究発表会」を開催します。

日時 平成19年1月21日（日）
午前10時から午後3時50分まで

会場 千葉市文化センター
（千葉市中央区中央2-5-1ツインビル2号館）
●ホール（3階）●市民サロン（5階）

交通 JR総武本線「千葉駅」下車 徒歩10分
京成千葉線「千葉中央駅」下車 徒歩10分

発表内容

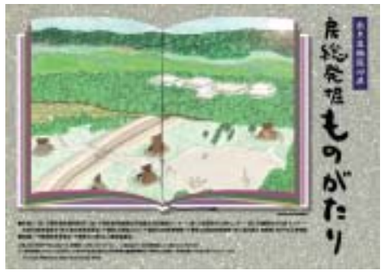
1）「柏市大松遺跡」（旧石器時代）
2）「佐倉市宮内井戸作遺跡」（縄文時代）
3）「市原市西広貝塚」（縄文時代）
4）「木更津市金鈴塚古墳」（古墳時代）
5）「千葉市長塚遺跡」（古代）
6）「芝山町境貝塚」（古代）
7）「本埜村角田台遺跡」（古代）

※参加希望の方は、当日会場へ直接お越しください。参加費は無料です。なお、当日は出土遺物の展示や報告書などの販売も行います。

出土遺物巡回展「房総発掘ものがたり」

開催中

前号でも紹介しましたが、平成18年度出土遺物巡回展「房総発掘ものがたり」は、県内各地で発掘された未公開の考古資料が出展され、多くの考古ファンで賑わっています。現在は県立安房博物館で開催中（～11月19日）ですが、今後は次の3会場を巡回します。どうぞご観覧ください。



平成18年11月25日（土）～平成18年12月24日（日）
千葉県立関宿城博物館
〒270-0201　野田市関宿三軒家143-4　TEL.04-7196-1400
URL.http://www.chiba-muse.or.jp/SEKIYADO

平成19年1月5日（金）～平成19年2月12日（月）
袖ケ浦市郷土博物館
〒299-0255　袖ケ浦市下新田1133　TEL.0438-63-0811
URL.http://www.sodegaura.ed.jp/sodehaku

平成19年2月17日（土）～平成19年3月25日（日）
松戸市立博物館
〒270-2252　松戸市千駄堀671　TEL.047-384-8181
URL.http://www2.city.matsudo.chiba.jp/m_muse

【ふさの国の文化財総覧】

第2巻・第3巻を好評販売中!!

●第2巻（香取・海匝・印旛）
A4判.287ページ.オールカラー
定価1,500円

●第3巻（東葛・京葉・君津・山武）
A4判.273ページ.オールカラー
定価1,500円

※県内の国・県指定文化財を解説した手引き書!
※所在地を訪れる際に便利な交通案内地図つき

埋文レポート

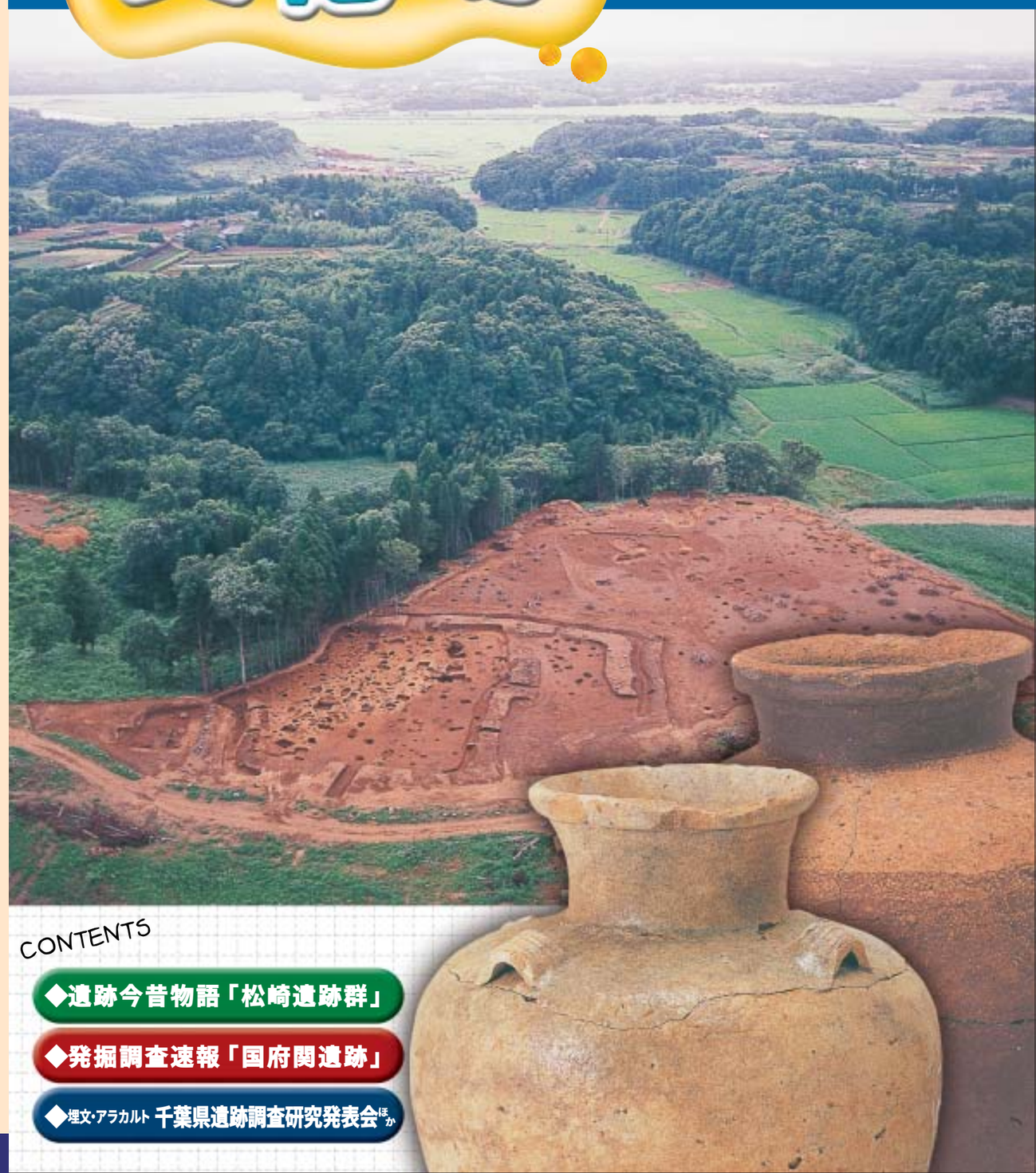
真夏の体験学習

県立中央博物館大利根分館での「勾玉つくり」

今年の夏も「勾玉つくり」や「縄文アクセサリーづくり（鹿角）」などを各地で開催し、たくさんの家族づれや小学生のグループが真夏の体験に汗を流しました。これからもこのような会をどんどん開催していきますので、皆様ふるって御参加ください。

房総の文化財

VOL. 40
ISSN 0919-0848
Boso no bunkazai
平成18年10月26日　財団法人 千葉県教育振興財団
〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811（代）　FAX 043-422-8850
http://www.echiba.org
（ホームページアドレスが変わりました）



CONTENTS

◆遺跡今昔物語「松崎遺跡群」
◆発掘調査速報「国府関遺跡」
◆埋文・アラカルト 千葉県遺跡調査研究発表会ほか

遺跡今昔物語

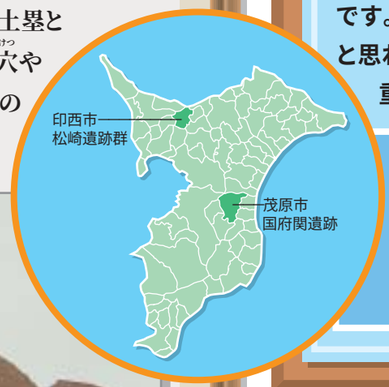
中世の武士の館と墓地
＝松崎Ⅲ遺跡＝

松崎遺跡群は、印旛沼の北西部・千葉ニュータウンの南側の台地上、印西市に所在し、松崎地区内陸工業団地造成に伴い平成5年度～17年度に発掘調査を行いました。調査面積は約23haもあり、Ⅰ～Ⅶ遺跡に地区割りされています。

遺跡群からは、旧石器時代、縄文時代早期、弥生時代後期～古墳時代前期、奈良・平安時代のむらの跡のほか、中世（鎌倉～戦国時代）の館跡や墓域が発見されました。

館跡全景（西から）

今回紹介する松崎Ⅲ遺跡で発見された館跡は、谷の奥にとび出た台地上に、土塁（土手）とその内外の溝で１辺55mほどの方形に囲む様に造られています。土塁の高さは1m前後、溝の深さは70cm前後と小規模です。内部も土塁と溝で区画され、掘立柱建物跡の柱穴や土坑（半地下式の建物跡や貯蔵用の穴など）が密集していました。



遺物は、13世紀～14世紀を中心とした、中国製白磁皿・青磁碗（写真手前）や愛知県産の山茶碗（無釉陶器、写真手前右端）、常滑焼のこね鉢・甕（写真後方）の他、中国銭や砥石も多く出土しました。戦国時代の城跡からよく出土する瀬戸焼の皿やすり鉢、中国製染付（白地に青色文様の磁器）の碗・皿、素焼きの皿などはほとんどありませんでした。

館跡出土の中世陶磁器

墓域の調査風景

館跡は当時の古文書や伝承もありませんが、谷の奥に位置し、守りのための土塁や溝が小規模なこと、また、同じ時期の墓域も含めた出土遺物などから、戦国時代より昔に松崎地域を開発した武士の本拠地と考えられ、県内では数少ない貴重な調査例です。

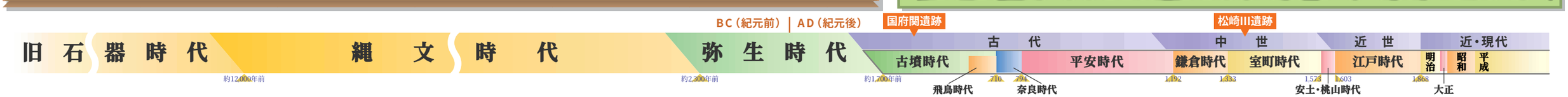
発掘調査速報

短剣の鞘が出土
－茂原市国府関遺跡－

国府関遺跡は、茂原市内を流れる豊田川の支流に沿って営まれた田んぼの下にある遺跡です。平成18年4月に行われた調査で鞘が出土しました。鞘とは、剣や刀を入れておく筒です。昔の川跡から出土しており、いっしょに見つかった土器から古墳時代前期(1,700年前)のものと考えられます。鞘のつくりは一本の木の棒を縦に割いて中を削り、もう一度合わせてその回りに細く裂いた木の皮2･3本を1組にして等間隔に巻き、最後に赤漆を塗って仕上げています。長さは28cmあります。作られた当時の赤漆の色が褪せることなく今まで保存されていたことは大変な驚きです。古墳時代前期の剣には鉄製短剣がありますが、鞘の口の部分から中を見ると木片が見えるので、中身は木剣がだったようです。当時はもっと鮮やかな赤色だったと考えられ、儀式用の木剣であった可能性が高いと思われます。剣は、権力の強さをあらわす道具であったことから、この地域のなかでも重要な地位にいた人物の持ちものだったことが想像されます。

表紙の説明

松崎Ⅲ遺跡出土の中世陶器

左側は瀬戸焼の灰釉四耳壺（高さ23.5cm）、右側は常滑焼の壺です。いずれも13世紀（鎌倉時代）に今の愛知県でつくられた陶器で、火葬された人骨片が納められていました。四耳壺は当時の高級陶器です。

背景は北上空から印旛沼方向を望む印西市松崎Ⅲ遺跡で、左手前が当時の武士の館跡です。その左側の小谷を挟んだ斜面に造られた平場からはこれらの陶器と共に多くの穴が見つかり、館主の一族の墓域と考えられます。